

東日本大震災・ いわき市

復興のあゆみ 2013

特区制度

町外コミュニティ

除染

被害者・避難者支援

原子力災害対策

産業の再生

風評被害克服

心のケア

復興交付金

災害公営住宅

再生可能エネルギー



いわき市



はじめに



一日も早いふるさとの復興を

いわき市長 清水 敏 男

平成23（2011）年3月11日の「東日本大震災」発生から3年が経ちました。

この間、いわき市は大地震、大津波、原子力発電所事故とこれに伴う風評被害など、さまざまな困難に立ち向かわなければならない状況となりましたが、国内外の多くの皆さまからのご支援と数えきれない励ましの言葉に支えられながら、市民・関係各位が一丸となって復旧・復興に取り組んでまいりました。

あらためて、これまでのご支援、お言葉などに深く感謝を申し上げます。

現在、いわき市においてはふるさといわきの力強い復興と再生のため、医療、職・雇用、住居に関わる課題の解消に向けた取り組みを進めるとともに、市民の安全・安心を最大限に確保し、震災前にも増して活力に満ちあふれた「世界に誇る復興再生モデルとなる持続可能なまち『いわき』を創る」を目的とする「いわき市復興ビジョン」、そして「いわき市復旧計画」、「いわき市復興事業計画」の着実な推進を図り、市民の皆様が復興の確実な進展を実感できるよう、全力で取り組んでいるところであります。

この『東日本大震災・いわき市復興のあゆみ2013』は、震災から2年が経過した後の平成25（2013）年を中心に、市復旧計画や市復興事業計画の進捗よくなど、ふるさとの復興状況を市民の皆さまにお知らせするために発行した冊子であり、来年度以降も復興の様子をお伝えしていきたいと考えております。

まちは、津波被害地の一部をのぞき、公共インフラの復旧をはじめ、徐々に震災前の姿を取り戻しつつありますが、まだ災害公営住宅の建設、観光産業や第一次産業などにおける風評被害からの脱却、放射性物質の除染、さらには町外コミュニティなどの課題を抱えており、復興への道のりは決して平坦ではありません。

私は、一日も早い復興が求められている極めて重要な時期に市長に就任いたしました。が、市政運営の舵取りを担う使命と責任の重さを痛感し、身の引き締まる思いで、懸命に復興に取り組んでいるところであり、一刻も早くこれら課題を克服し、「明るく元気ないわき市」を創造すべく、今後も多くの皆さまの支援などをいただきながら、本市が見違えるようなまちとして再生できるよう、全身全霊をかけて取り組んでまいります。